



決済・テクノロジーグループ

従来の決済グループとシステム部門を統合して新たに設置された「決済・テクノロジーグループ」は、常に業界をリードし、すでに邦銀トップクラスの地位を確立しているIT(インフォメーションテクノロジー)を駆使した各分野への取り組みを一層強化していきます。

「決済部門」としての戦略について

「決済の富士」としての実績とサービスのノウハウを基盤に、お客さまのさらなる利便性の向上に寄与。

1. 決済部門を取り巻く環境と役割

決済部門は、決済、エレクトロニックコマース(電子商取引)外為業務、外貨預金などの分野における高品質かつ低コストなプロセッシング(事務処理)サービスの提供、新商品の開発を通してお客さまのさまざまなニーズに対応し、広く利便性の向上に寄与していくことを最大の役割としています。

当行は、特に「円」の資金決済や、カストディ(証券の保管管理)業務、最先端のITを駆使したエレクトロニックコマース分野などに独自の強みを有し、これらの分野におけるサービス水準の高さは、「決済の富士」として内外に広く認知されています。

一般にプロセッシングの分野は、高度なノウハウが必要とされ、また多額のシステム投資を継続的に行っていく必要があることから、多くの一般企業、金融機関にとって必ずしも効率の良い分野ではありません。しかし、業務の効率性、収益性が厳しく問われる中で、従来は内部で管理していたこうした分野を外部に委託したいというニーズは着実に高まってきているのが現状です。当行では、これまでに築いてきたサービスのノウハウを十分に活かすと同時に規模の利益を追求していくことによって、さらに高品質かつ安価なサービスを提供し、お客さまのニーズに応えていきたいと考えています。

当行ではまた、外貨預金の新商品開発およびデビットカ

ードやサイバーバンク、電子マネー、貿易金融EDIなど、将来を見据えた次世代の決済フレームワークの構築にも積極的に取り組んでいます。オプション付き外貨預金は、多様化するお客さまのニーズにマッチした、大変好評な商品です。インターネットバンキング、デビットカード、電子マネーなどの分野では、この分野における日本の第一人者としての立場から、お客さまのニーズに応じた商品の開発を進めるとともに、情報処理手順、安全面などの基準作りを積極的に進めています。また貿易金融EDIの分野では、BOLEROプロジェクトなど、内外のプロジェクトに当初から参画し、インターネット技術の普及にともなう新しい貿易取引の流れ、プロセッシングの流れを構築するための実証実験を進めています。

なお「円の国際化」に関心が高まる中においては、このような新しい決済フレームワークの構築についても国際的な観点をふまえた検討が重要となります。一企業としての関心にとどまるのではなく、日本すなわち「円」の国際的プレゼンス向上をも視野におきながら、このようなプロジェクトに取り組んでいくことも当行の重要な役割であると認識しています。

EDI(Electronic Data Interchange)

異なる企業間で商取引にかかわるデータを、コンピュータ・ネットワークを介して交換すること。

BOLEROプロジェクト

貿易取引に必要な船荷証券などの書類を電子化することで、事務コストの削減、貨物の受渡時間の短縮化、書類紛失リスクの削減を図る世界的な貿易金融EDIプロジェクト。

2. 具体的戦略と今後の課題

1. 外国為替

当行では平成10年4月の改正外為法の施行以来、法人向け業務を取扱う全店舗で外国為替業務を取扱うとともに、本年度には外国の金融機関と提携し、国内で初の「輸出債権オフバランス化スキーム」を商品化するなど、貿易金融の分野で積極的な新商品開発を進めてきています。また、本年1月に登場した欧州統合通貨である「ユーロ」についても、売買幅や金利を他行比競争力のある水準に設定し、積極的な取引導入に努めてきました。加えて、貿易金融EDI分野では、BOLEROプロジェクトなどに率先して参画し、電子化にいち早く対応したサービス提供体制を整えていきます。

2. 外貨預金

個人のお客さまの高利運用ニーズにお応えし、かつテレホンバンキングでの取扱が可能な利便性の高い商品として、『富士スーパー外貨定期預金』を発売しました。また、円ベースでの高利運用が可能となる『オプション付外貨定期預金』も発売しました。今後とも多様化するお客さまのニーズに応えられる商品ラインアップの拡充に努めていきます。

3. エレクトロニックバンキング・

エレクトロニックコマース

エレクトロニックバンキングはすでに多くのお客さまに利用されていますが、当行ではお客さまの多様化するニーズに応えるため一層のサービス水準の向上に努めています。個人の決済分野では、デビットカード、インターネットバンキング、電子マネーなどの新しい決済インフラの構築において、主導的な役割を果たしてきたことで、この分野での当行の先進性が広く認知されました。国際間におけるキャッシュマネジメントサービスの分野では、従来より国際CMS(海外版EB商品)を提供しており、海外現地法人・関連子会社の資金管理や、本社名義の非居住者預金口座の管理などに、幅広くご利用いただいています。また、本年2月には、IBOS(P.9参照)への加盟により、海外進出を計画しているお客さまへの利便性の向上など、海外ネットワークの拡充にも力を注いでいます。当行ではより効率的な「総合デリバリーチャネル」の構築を展望し、一層の商品開発を進めていきます。

4. カストディ(証券決済)

投資家が証券投資を行う場合、通常、証券の保管や決済、および株主の権利行使などの管理については銀行などの金融機関に委託します。当行は、国内外の機関投資家に対して、このカストディサービスを提供していますが、特に海外機関投資家に対する円カストディサービスの分野において、正確・迅速な事務処理能力・サービスの品質は世界的にも高く評価されています。円建証券の預り資産残高は、国内トップ水準に位置しており、また当行は、国際的な権威を誇る「グローバルカスティアン誌」から7年連続して最高の格付評価を受けています。

5. 円決済

当行は、多くの海外金融機関から日本における「円」の資金決済の委託を受けています。また昨年12月からは、外為円決済制度の変更に伴い国内の金融機関からの代行決済業務の受託を開始しました。一方、決済リスク削減の観点からは、ネットインクの推進や異種通貨間の時差にともなう決済リスクを削減するための国際的プロジェクトであるCLS Bank設立に向けた取り組みを進めています。決済を受託している金融機関として、当行では決済リスク、オペレーションリスクなどの各種リスクの削減に向けて従来にもまして積極的に取り組んでいきます。

CLS Bank

外国為替取引の債務不履行のリスクを抑えるため、内外の約60の金融機関が共同で設立する外為決済専門銀行のこと。

